編集凡例

主教*
Garland F. Byers, Jr., J.D., D.D. ‡
諸国民への主教、使徒的委任のもとに



『執筆する聖ヒエロニムス』、カラヴァッジョ作（1605–06年）、Galleria Borghese（ボルゲーゼ美術館）、ローマ。頭蓋骨はメメント・モリである。死はいつ訪れるかわからない。それゆえに悔い改めへの招きがある。「なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり」（マタイ伝福音書 4:17、文語訳）。

パブリックドメイン。

天国の学者の著作は、以下に定める凡例に従っている。ここにそれを明記するのは、すべての読者が、聖書およびその他の典拠がどのように引用されているか、特定の典拠がなぜ引かれているか、そしてこれらのページで用いられている記号と書式が何を意味するかを知ることができるようにするためである。

聖書

聖書は決して改変しない。聖書は、引用する版に印刷されているとおり一語一語そのままに引用し、いかなる状況においても、いかなる理由によっても、決して改変しない。語、文字、句読点の一つたりとも加えず、削らず、変えず、その中に強調や組版上の記号を置くこともしない。印刷された本文に文法、綴り、または印刷上の誤りがあるように見える場合も、そのままの形で残す。聖書は聖なるものであり、訂正を口実としてこれに手を加えることは一切しない。主教がある箇所について論評しようとするときは、引用の外で、自らの言葉によってそれを行う。

用いる聖書。英語では、聖書は欽定訳聖書（King James Version。1769年の標準本文、外典を含む）から引用する。その他のすべての言語では、読者が読んでいるその言語で、定評があり刊行されている聖書の版から引用し、英語から新たに翻訳することは決してない。可能な限り、認められた聖書協会の公式の版から引用するよう、あらゆる努力を払っている。全体を通してパブリックドメインの版を用いてきたが、それは主として、著作権の問題と、著作権のある版を用いるための許可を待つことを避けるためである。それでも、慎重を期すべきであり必要であった一部の場合には、その言語を担当する聖書協会に許可を求めている。なお著作権の存続している版は、その出版者の許可によって用いている。許可は直接与えられたもの、または出版者が公表している利用許諾によるものであり、あるいは法の許す範囲において公正な利用として用いている。

版名を明記する。聖書の引用にはすべて、引用元の版の名を記す。たとえば英語では〖KJV〗、ドイツ語では〖Schlachter 1951〗、日本語では〖文語訳〗」である。

節の番号。聖書によっては、一部の節、とりわけ詩篇の節の番号の付け方が異なる。各言語はそれぞれの聖書の番号に従って引用するため、同じ箇所の出典表示が英語のものとわずかに異なることがある。

キリストの言葉。キリストの言葉は、その引用符とともに、主教の判断に従って赤字で印刷する。少数の箇所では、語っておられるのがキリストであるか福音書記者であるかについて見解が分かれている。ヨハネ伝福音書3:16がその例であり、そのような箇所は黒字のまま残す。

正典の範囲を異にする書。すべての教会が同じ書を聖書として受け入れているわけではない。ある教会では受け入れられ、他の教会では受け入れられていない書、たとえば外典の諸書やエチオピア正教会（テワヒド）の正典に属する書も引用することがあり、それを引用することは、その書の正典としての地位についていかなる判断を示すものでもない。

権威の序列

典拠は、最も高いものから最も低いものへと、次の権威の序列に従って重みを量る。各著者または各著作は、それが該当する最も高い区分に置く。信条はそれを採択した公会議とともに置くが、使徒信条は第九の区分に、アタナシウス信条は第十一の区分に置く。

1. **キリストの言葉**。聖書のどこに記されているものであっても。
2. **使徒の著作**：マタイ伝福音書、ヨハネ伝福音書、ヨハネの第一・第二・第三の書、ヨハネの黙示録、パウロの十三の書簡、およびペテロの前の書と後の書。
3. **新約聖書のその他の著作**：マルコ伝福音書、ルカ伝福音書、使徒行伝、ヘブル人への書、ヤコブの書およびユダの書。
4. **旧約聖書**。1611年の欽定訳聖書に印刷された外典を含む。
5. **使徒教父**。使徒たちに続く世代の人々（紀元95–150年頃）。
6. **ニカイア以前の教父**。ニカイア公会議（紀元325年）以前の人々。
7. **ニカイアおよびニカイア以後の教父**。砂漠の師父たちを含む。
8. **七つの全地公会議**。東方と西方の双方に受け入れられたもので、それぞれが採択した信条と定めを含む。

9. **後代の公会議**。東方と西方の双方には受け入れられていないもの。
10. **聖人**：東方であれ西方であれ、教会によって聖人と認められた人で、より高い区分に置かれていない者の著作。
11. **信仰告白、カテキズム（教理問答）、ならびに教皇および総主教の文書**。
12. **典礼文**。古代の典礼や『祈祷書』（Book of Common Prayer）など。
13. **列聖されていない歴史上のキリスト教著作家**。
14. **古代の正典外の典拠およびキリスト教以外の典拠**。偽典、死海文書、ヨセフス、ギリシア・ローマの歴史家など。
15. **現代の学術研究**。
16. **参考図書**。辞書やコンコルダンス（用語索引）など。これらは権威としてではなく、道具として用いる。

典拠の選択

支持を意味するものではない。回勅を引用すること、ある教派の著者のいずれかの著作を引用すること、またある教会の著作を他の教会の著作に代えて引用することは、その教派または教会を支持することを意味せず、いかなる種類のひいきを意味するものでもない。ある一節が選ばれるのは、その特定の典拠のその特定の一節が、論じている事柄について特に教えるところが大きいと主教が判断したからであり、それ以外の理由によるものではない。いかなる教派をも推し進めたり妨げたりすることは、主教の意図するところではない。

真理は見いだされるところにある。主教は、真理は人がそれを見いだすところにあると考えている。それゆえ主教は、世俗の典拠や、正典外の著作、あるいは諸教会の間でなお論争のある著作を引用することがある。そうするのは、著者として、引用する一節が特に教えるところが大きいと判断し、自らの述べることが真理であると確信しているからである。

引用と出典表示

引用は原文どおりである。引用符の中の言葉は、常に引用元の典拠の言葉そのままである。典拠の言い換えを引用であるかのように示すことは決してない。典拠の正確な文言を確認できない場合は、引用しない。

省略記号と角括弧。省略記号（.....）は、引用が原文の文の途中から始まり、または途中で終わること、あるいは語句が省かれていることを示す。引用中の角括弧内の語句は、引用元の版に現れるとおりに再現する。聖書の引用には決して何も挿入しない。

巻末注は全文を示す。著作の中で引用するすべての典拠は、その巻末注において、典拠の言葉そのままに全文を示す。読者が典拠への参照ではなく、典拠そのものを読むことができるようにするためである。

出典表示。逸脱を明記した箇所を除き、出典表示と書式は『シカゴ・マニュアル』（Chicago Manual of Style）に従う。これは、ここに掲載されるような神学的・歴史的著作について広く認められている方法である。天国の学者の著作は、次の点において、次の理由により、意図的にこれと異なる扱いをしている。

1. **神を指す代名詞は大文字で書き始める**（He、Him、His）。「His right hand」（その右の手）のように、神に属する語も同様である。シカゴ・マニュアルは一般にこれらを小文字とするが、ここでは畏敬の念から大文字とする。（この規則は、大文字のある文字で書かれる言語のページに適用される。）
2. **部分的な引用には省略記号を残す**。シカゴ・マニュアルは一般に、引用の初めと終わりの省略記号を省く。ここではそれを残し、引用が、とりわけ聖書の引用が文全体を示していないときには、読者が常にそれと分かるようにする。
3. **巻末注は、引用するすべての典拠の全文を示し、**参照箇所だけを示すのではない。読者が典拠そのものを読むことができるようにするためである。
4. **キリストの言葉は、その引用符とともに赤字で印刷する**。赤字聖書の長い慣習に倣い、主の言葉が際立つようにするためである。
5. **イエスを指す「Lord」（主）の語は、スモールキャピタルで組む**。これは主教自身の文章においてであり、聖書の中では決して行わない。畏敬の念によるものである。（この規則は、大文字のある文字で書かれる言語のページに適用される。）

他の言語における教父。教父の言葉を英語の版から引用する場合、他の言語のページにおけるその引用は、その英語の版から翻訳したものであり、その旨を、たとえば〔ANF 1の英語から翻訳〕」のように明記する。

言語と文体

畏敬を表す大文字。神を指す代名詞は大文字で書き始め（He、Him、His）、キリストがその右に座しておられると言う場合のように、同じ意味で神に属する語も同様とする。この規則は、大文字のある文字で書かれる言語のページに適用される。日本語には大文字と小文字の区別がない。

スモールキャピタルの「主」。主教自身の文章において、イエス・キリストを指す「Lord」（主）の語は、大文字のある文字で書かれるすべての言語において、スモールキャピタルで組む。聖書の中では決してこれを行わない。日本語には大文字がないため、日本語のページでは「主」を通常の字体で書く。

その他の大文字。大文字のある文字で書かれる言語では、「Kingdom」（神の国および天国）、「Kingdom Scribe」（天国の学者）、「Scripture」（聖書）、「the Church」（キリストのからだ全体を意味する教会）、「the Holy Spirit」（聖霊）を大文字で書き始める。

綴りと句読法。英語のページはアメリカ式の綴りを用いる。セミコロンで区切られた列挙では、最後の項目を「; and」（日本語では「、および」）で導く。

称号。称号は呼びかけの形式として用いるものであり、地位の主張として用いるものではなく、控えめに保つ。

「The Most Reverend」（本サイトの「主教」）は、合衆国において主教に対して慣例となっている敬称である。それは職務に属するものであって人に属するものではなく、主張される栄誉としてではなく、礼儀として用いられる。合衆国で用いられる敬称についてのカトリックの手引きは、主教に宛てて書く場合の形として、「His Excellency, / The Most Reverend (full name)」（閣下／The Most Reverend（氏名））を挙げている。[1]

D.D. バイヤーズ主教が有する神学博士の学位は、honoris causa、すなわち課程の修了によってではなく名誉として授与されたものであり、これは教会において時に行われることである。[2]よく知られた例として、ビリー・グラハム（Billy Graham）牧師博士がいる。彼が学業によって取得した最高の学位は文学士であり、[3]1948年に名誉神学博士の学位を受けた。[4]彼は一般に「Dr. Graham」（グラハ

ム博士）と呼ばれていた。[5]名誉博士号を受けた人としては、ほかに、学校教育を初等学校で終えたハリー・A・アイアンサイド（Harry A. Ironside）牧師、[6]G・キャンベル・モーガン（G. Campbell Morgan）牧師、[7]伝道者ビリー・サンデー（Billy Sunday）、[8]香港および華南の主教ロナルド・オーウェン・ホール（Ronald Owen Hall）、[9]C・S・ルイス（C. S. Lewis）、[10]A・W・トーザー（A. W. Tozer）牧師、[11]およびコルカタの聖テレサ[12]がいる。

人名。聖人、教皇、総主教、その他の主教の名は、その人自身の教会で伝統的な形、または読者の言語で慣用されている形で記す。選んだ形は、諸教会の間のいかなる優劣をも意味しない。

翻訳。英語以外の言語のページは人工知能の助けを借りて翻訳されており、英語の本文を正文とする。翻訳と権威についての覚え書きを参照。

ウェブサイト

図版。パブリックドメインの図版、またはそのような利用のために自由に使用が許諾されている図版のみを掲げ、それぞれに説明と出典を付す。

番号、日付、改訂。刊行物には番号と日付を付す。常設のページはその場で改訂されることがあり、改訂されたページには最終改訂の日付を示すことがある。読者が自分の読んでいる版がどれであるかを知ることができるようにするためである。

訂正。誤り、とりわけ聖書の引用の誤りを見つけた読者は、ホームページに記されている宛先まで知らせていただきたい。誤りは訂正する。

略語

KJV	欽定訳聖書（King James Version。1769年の標準本文）
ANF	『Ante-Nicene Fathers』（ニカイア以前の教父著作集）、Alexander Roberts、James Donaldson編。後に巻数を付す

NPNF2	『Nicene and Post-Nicene Fathers』（ニカイアおよびニカイア以後の教父著作集）第二集、Philip Schaff、Henry Wace編。後に巻数を付す
Easton	Burton Scott Easton、『The Apostolic Tradition of Hippolytus』（1934年）
紀元	ラテン語 Anno Domini、「われらの主の年に」
頃	ラテン語 circa、およそ

最終改訂：2026年10月10日

注

1 Michael Andrews「How to Address Church Officials, Bishops, Priests」、『Adoremus Bulletin』、2009年8月15日、https://adoremus.org/2009/08/how-to-address-church-officials-bishops-priests/。このページには「合衆国において通信および口頭で用いられる敬称を、教会の役職者の郵送先住所のいくつかとともに、以下に示す」と記されている（英語から翻訳）。

2 フランシスコ『Veritatis Gaudium』、Apostolic Constitution on Ecclesiastical Universities and Faculties（2017年12月8日）、第51条：「An honorary Doctorate can be conferred for special scientific or cultural merit in promoting the ecclesiastical sciences」（「教会諸学の振興における特別な学術的または文化的功績に対して、名誉博士号を授与することができる」、英語から翻訳）、https://www.vatican.va/content/francesco/en/apost_constitutions/documents/papa-francesco_costituzione-ap_20171208_veritatis-gaudium.html。

3 Wheaton Archives & Special Collections「Billy Graham Resources」、Wheaton College、2026年10月10日閲覧：「Graham matriculated at Wheaton in 1940 and graduated in 1943 with a BA in anthropology」（「グラハムは1940年にウィートンに入学し、1943年に人類学の学士号（BA）を得て卒業した」、英語から翻訳）、https://www.wheaton.edu/about-wheaton/museums-library-and-collections/wheaton-archives-and-special-collections/research/billy-graham-resources。

4 Wheaton Archives & Special Collections「Select Chronology」、The Evangelism & Missions Archives、Wheaton College、2026年6月2日最終更新：「King's College commencement, received honorary Doctor of Divinity degree」（「キングズ・カレッジの卒業式、名誉神学博士の学位を受ける」、英語から翻訳）、New Castle, DE、1948年6月7日、https://www.wheaton.edu/__data/assets/file/0013/30370/Chronology-1934-2018.pdf。

5 David Van Biema「Dr. Billy Graham: A Purposeful Life, An Indelible Legacy」、『Guideposts』、[2018?]、2026年10月10日閲覧：「The Reverend Dr. Billy Graham, quite possibly the most influential and admired religious leader of the 20th century, passed away on Feb. 21, at the age of 99」（「おそらく20世紀で最も影響力があり、最も敬愛された宗教指導者であるビリー・グラハム牧師博士が、2月21日、99歳で逝去し

た」、英語から翻訳）、https://guideposts.org/articles/prayer/inspirational-prayers/dr-billy-graham-a-purposeful-life-an-indelible-legacy/。あわせて以下を参照。Blake Killingsworth「DBU Celebrates the Life of Billy Graham」、Dallas Baptist University、2018年2月21日：「DBU presented its first honorary doctorate to Dr. Billy Graham during a special ceremony held on the DBU campus」（「DBUは、DBUのキャンパスで行われた特別な式典において、最初の名誉博士号をビリー・グラハム博士に授与した」、英語から翻訳）、https://www.dbu.edu/news/2018/02/dbu-celebrates-the-life-of-billy-graham.html；Erin Branham「A Personal Memory of Dr. Billy Graham」、BRIGHT-FM、2018年2月21日：「Dr. Graham invited many millions of people to encounter Jesus in a personal way」（「グラハム博士は、幾百万もの人々を、個人としてイエスに出会うよう招いた」、英語から翻訳）、https://www.brightfm.com/shine/shine-daily/a-personal-memory-of-dr-billy-graham/；および Frank J. Beard「Reflections on the life of Rev. Dr. Billy Graham」、Illinois Great Rivers Conference、The United Methodist Church、2018年3月1日：「Dr. Graham received many awards, honorary degrees, and citations during his long life of 99 years」（「グラハム博士は、99年に及ぶ長い生涯の間に、多くの賞、名誉学位、表彰を受けた」、英語から翻訳）、https://igrc-www.brtsite.com/blogpostsdetail/11047520。

6 「Author Biography」、Plymouth Brethren & Other Ministries：「Though his classes stopped with grammar school...」（「彼の学業は初等学校で終わったが.....」、英語から翻訳）；「Wheaton College awarding an honorary Litt.D. in 1930 and Bob Jones University an honorary D.D. in 1942」（「1930年にウィートン・カレッジが名誉Litt.D.を、1942年にボブ・ジョーンズ大学が名誉D.D.を授与したこと」、英語から翻訳）、https://plymouthbrethren.org/node/5488。

7 「The G. Campbell Morgan Collection」、Learning Commons、Chicago Theological Seminary：「Morgan received his Doctor of Divinity degree from Chicago Theological Seminary in 1902」（「モーガンは1902年にシカゴ神学校から神学博士の学位を受けた」、英語から翻訳）、https://ctslibrary.org/collections/Campbell_Morgan/intro.html。

8 Robert P. Muhlbach「Billy Sunday, Evangelist」、『Baseball Research Journal』（Society for American Baseball Research）、1980年：サンデーは「had numerous honorary doctor of divinity degrees conferred upon him」（「数多くの名誉神学博士の学位を授けられた」、英語から翻訳）、https://sabr.org/journal/article/billy-sunday-evangelist/。

9 University of Hong Kong, Honorary Graduates「The Rt. Rev. Ronald Owen Hall」：「Doctor of Divinity honoris causa」（「名誉神学博士（honoris causa）、英語から翻訳）、64th Congregation、1965年、https://www4.hku.hk/hongrads/citations/mc-ma-ronald-owen-hall-the-rt-rev-ronald-owen-hall。

10 Gabriel Sewell「Graduation week, celebrating Honorands: Great thinkers and writers」、University of St Andrews Special Collections：「St Andrews awarded Clive Staples Lewis an honorary Doctor of Divinity in June 1946」（「セント・アンドルーズ大学は1946年6月、クライヴ・ステープルズ・ルイスに名誉神学博士の学位を授与した」、英語から翻訳）、https://university-collections.wp.st-andrews.ac.uk/?p=11658。

11 「A.W. Tozer & Wheaton College」、Wheaton College Special Collections、2012年2月27日：「Wheaton College honored Tozer with an honorary doctorate (LLD) in 1950」（「ウィートン・カレッジは1950年、ト

ーザーに名誉博士号（LLD）を贈った」、英語から翻訳）；「Houghton College bestowed the honorary LLD two years later」（「その2年後、ホートン・カレッジが名誉LLDを授与した」、英語から翻訳）、https://lib-scblog3.wheaton.edu/?p=5051。

12 University of Hong Kong, Honorary Graduates「The Reverend Mother Teresa」：「Doctor of Social Sciences honoris causa」（「名誉社会科学博士（honoris causa）、英語から翻訳）、146th Congregation、1993年、https://www4.hku.hk/hongrads/graduates/m-c-o-m-o-b-e-hon-d-d-hon-dr-med-mary-bojaxhiu-teresa-the-reverend-mother-teresa。また、『Duke of Edinburgh Is Installed as Chancellor of the University』、Anglia Television、1977年、East Anglian Film Archive、cat. 207990（彼女が「receiving an honorary degree from the Duke that day」（その日、公爵から名誉学位を受けている」、英語から翻訳）様子を記録）、https://eafa.org.uk/work/?id=894726。

本ページの日本語の聖句は、すべて文語訳聖書（旧約：明治元訳、1887年／新約：大正改訳、1917年、日本聖書協会）から引用しています。いずれもパブリックドメインです。本文：ウィキソース。聖句は抜粋して引用しており、省略箇所は「……」で示しています。